

**第三日目は.....**

さて、第三日目です。まず第一日の漢字を見せて「これは何という漢字？」と言って質問します。答えたら、「よく読めたわねえ。ではこれは何という字でしょう？」と言って第二日目の漢字を見せて読ませます。

それも正しく読めたら、「この字もよく覚えたわねえ。では、今日は“花”という字を教えてあげましょう。この“花”は、顔にある鼻ではなくて、チューリップの花の“花”という字よ」と言って、第三日目の漢字を教えてやります。

この形を、やはり一日に六回繰り返してやります。「これなあに？ よく読めたわね。ではこれなあに？ これも読めたわね。では、今日の新しい漢字」という形を六回繰り返してやるのです。

もし、第二日目の漢字が読めなかったら、第三日目は、第二日目にやったことと、全く同じことをもう一度繰り返してやるのです。一日遅れたからと言って、あせってはいけません。初めの二か月、とりわけその初めの一週間が大切です。ここであせっては、子供が漢字をきらうようになります。そうなったら、遅れは一週間や一月ではおさまらなくなります。

だから、読めなくても、お母さんはにっこりと笑って、初めて教えるような態度で、やさしく教えてやる心掛けが必要です。

最初の一週間を、あせらず落ち着いてやれたら、子供の方もよく飲み込めて、あとは調子よく覚えるようになるものです。むしろ、初め飲み込みの悪い子の方が、いったん軌道に乗ると初め飲み込みの良い子よりも、うまく進むことが多いようです。

だから、初め飲み込みが悪いと言って、決してがっかりしてはいけません。親ががっかりしたら、それは子供に敏感に影響します。決して感情を露骨に表わさず、にっこりと笑って子供に接していただきたいと思えます。